



平成30年3月29日

小金井市立図書館

館長 菊池 幸子 様

第15期小金井市図書館協議会

会長 田中 幸夫



小金井市の図書館の在り方について (答申)

平成28年10月24日付け小教生図発第24号にて諮問をうけました標記の件について、別紙のとおり答申します。

小金井市の図書館の在り方について  
(答申)

平成30年3月29日

小金井市図書館協議会

はじめに

緑豊かで学ぶことへの市民の意欲の高い小金井市にあって、知の中心としての図書館の存在は大変重要な意味を持つ。この度、図書館長より小金井市の図書館の在り方について諮問を受け、小金井市立図書館の在り方について協議を重ねてきた。

小金井市の図書館は、平成25年全面改訂した小金井市立図書館運営方針で「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」をサービスの指針に掲げ、運営されている。

かつては、旧小金井市立図書館運営方針に掲げられていたように、小金井市の図書館の基本的な構想として6館構想と言われたものがあり、全市を網羅するような配置を考えたものであった。現在、この構想はなく、新しい図書館の建設計画、施策は示されていない。

貫井北分室が平成26年4月年に創設され、NPO法人「市民の図書館・公民館こがねい」に業務を委託し、翌年東分室も同法人に業務委託した。

また長い間、本館の老朽化と手狭なことが大きな問題になっている。このような状況を踏まえ、以下のように、小金井市の図書館の在り方について答申する。

## 1. 『新たな中央図書館の建設へ』

### 1) 知の拠点としての中央図書館

現在の本館は小金井市のほぼ中央にあり、位置的にも機能的にも中央図書館的役割をなしている。しかし、蔵書も多くなり、閲覧スペースに余裕がなく、かなり手狭である。また、建設されてから40年以上が経ち、雨漏りなど施設の老朽化が進んでいる。

これらの問題を解決すべく、新しい図書館(以下、「中央図書館」という。)を建設することが必要であると思われる。市全体の財政状況や施設配置のあり方を考慮する必要もあるが、立地場所はアクセスが良く、市民が集まりやすい場所に、知の拠点、情報の蓄積・発信、市民の集うところとして、十分なスペースを持った中央図書館の建設をしていただきたい。

### 2) 蔵書の保持とスペース確保

現在の本館は書庫スペースが限界に達し、閲覧場所も限られている。当面は、資料の選書や廃棄を工夫し、書庫スペースの確保に努めていく必要がある。

小金井市で所蔵すべき図書資料を峻別する必要がある。大切な蔵書の保

持と廃棄は図書館の重要な仕事である。また、図書館に限らず、他の場所での保管も視野に入れるべきであるとする。

### 3) 図書館機能の強化

中央図書館においてはタブレット端末やPCが使える環境を作り、様々なコンテンツを見たり、聞いたりできる場を提供し、視聴覚機材、資料の提供も行うことが望ましい。また、プライバシー保護等の観点から、自動貸出機等を導入し、気軽に図書館を利用してもらうことも必要とする。

また、ホームページをより充実させ、見やすく、情報発信の中心としての役割を果たす事も求められる。

### 4) 子どもから高齢者の居場所作り

誰もが気楽に訪ねたくなるような「場・環境」を整備することが望まれる。例えば、中高生が使用できるスペースも必要であり、様々な年代の人々が読書活動を通じて共有できるような、多目的スペースを作るなども考えて欲しい。

利用者が、場所と時間をうまくシェアできるような仕組みづくりの検討も必要ではないだろうか。

## 2. ネットワークの強化

### 1) 本館（中央図書館）、分室の個性化と連携強化

本館（中央図書館）をセンターとして、東分室、緑分室、貫井北分室、西之台図書室は市内の図書館ネットワークを構築しているが、さらに連携を強化することが望ましい。また、小金井市立図書館全体として蔵書にバラエティを持たせていくためには、本館と各分室が、地域に応じた選書を行うことが望ましく、それを支えるネットワークの強化が必要不可欠だと考える。

### 2) 市内の小中学校との連携

市内にある小学校、中学校との連携を強め、学校図書館-市立図書館との連携を強められたい。学校教育部門や学校と協議し、縦割り組織の解消あるいは壁を低くするように取り組んでほしい。

### 3) 高校、大学との連携

市内にある、高等学校、大学とのさらなる連携強化に努めるようにしてほしい。高校・大学の図書館使用やイベント情報を伝え合うなどネットワークを強化活用することに取り組んでほしい。

### 4) 市民協働・公民連携

既に「NPO法人市民の図書館・公民館こがねい」が東分室、貫井北分室を事業運営している。本館（中央図書館）や分室が地元商店街や各種市民団

体などとも、連携を深めていくことも必要と考える。

#### 5) 他市、他機関との連携

府中市、武蔵野市、三鷹市、西東京市の図書館とは利用者が相互利用できる協定を結んでいるが、他市の図書館とも連携を深めて欲しい。また、市内外の文化施設や機関との連携を図ることで、図書館活動をさらに広げていくことも必要である。

### 3. サービス向上と質の保証

#### 1) 運営形態

本館（中央図書館）の基幹業務は、専門的な知識を有した専従職員によって円滑に行われるものとする。一方で開館時間の拡張や窓口業務の一部などは委託職員を活用するなど、公と民が調和した形態が良いと思われる。本館（中央図書館）は、分室のNPO委託とのバランスのとれた運営形態が望ましい。

#### 2) 市民参加推進ボランティアの育成と活用

既に読み聞かせや障がい者へのボランティアなどが多く活躍しているが、さらに、図書館への市民参加を促し、ボランティアの育成を行うことを推進してほしい。

#### 3) 選書の重要性

市民のニーズと小金井らしさ（地元に関する本、資料、文献等）を考慮した選書が重要である。資料選書のためには専門的知識を有する職員の配置が必要であり、そのためにも職員の確保と育成が大切である。

#### 4) 本館（中央図書館）、分室の特徴を出す。

本館（中央図書館）は基本的な図書資料を揃えながら、分室はそれぞれに特徴ある選書、イベントなどを行うことにより、全体として調和が取れるようにする。特にそれぞれの分室の特徴を出すことにより、小金井市全体として魅力的な図書館となりうるものと思われる。

#### 5) 図書館へのアクセスの確保

図書館への来館をスムーズにするための配慮が必要である。駐車・駐輪場の確保や、CoCoバスを含めた公共交通機関アクセスのルートの検討も必要であろう。

#### 6) 来館が困難な人へのサービス

図書館に直接来られない人や、図書館の開館時間中に利用できない人などが、図書館サービスを楽しむことができるような図書の宅配サービスや受取場所を増やすなどの仕組みも検討して欲しい。

最後に

第14期～15期の小金井市図書館協議会にかけて審議し、これからの小金井市の図書館の在り方について答申をまとめた。これまでの図書館を取り巻く情勢や現在の小金井市の財政状況は認識しているが、質の高い図書館の運営及び更なる市民サービスの向上を目指し、時代に沿った図書館になるように進化して欲しい。本答申が基となり、すべての市民に寄り添った小金井市の図書館となるように願う。

注)

本館

⇒ 現在の小金井市立図書館本館。中央館的機能を担っている。

中央図書館

⇒ 手狭で、老朽化している現在の本館に代わる新しい図書館。単なる本館建て替えではなく新しい機能を取り入れた施設であり、分室・図書室が独自の特色を持った運営を行うための、ネットワークの核となる図書館。

本館（中央図書館）

⇒ 本館にも中央図書館にも該当する部分には、このように表記した。

#### 第15期小金井市図書館協議会

|    |    |     |
|----|----|-----|
| 委員 | 田中 | 幸夫  |
| 委員 | 大友 | 敬三  |
| 委員 | 鴨下 | 万亀子 |
| 委員 | 石田 | 静子  |
| 委員 | 水谷 | 多加子 |
| 委員 | 長田 | 秀一  |
| 委員 | 吉田 | 和夫  |
| 委員 | 坂野 | 勝一  |
| 委員 | 中里 | 成子  |
| 委員 | 藤森 | 洋子  |